

令和6年度

家庭ごみ及び事業系ごみ組成分析調査結果報告書

令和7年3月

苫小牧市ゼロごみ推進課

--- 目 次 ---

1.	目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P 1
2.	調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P 1
	（1）家庭ごみ	
	①調査対象	
	②調査方法（戸別収集は若干異なる）	
	③分析項目	
	（2）事業系ごみ	
	①調査対象	
	②調査方法	
	③分析項目	
3.	家庭ごみの分析結果・・・・・・・・・・・・・・・・	P 2
	（1）燃やせるごみ	
	（2）燃やせないごみ・・・・・・・・・・・・・・・・	P 4
	（3）プラスチック・・・・・・・・・・・・・・・・	P 6
	（4）紙類・・・・・・・・・・・・・・・・	P 8
	（5）資源物・・・・・・・・・・・・・・・・	P 10
4.	事業系ごみの分析結果・・・・・・・・・・・・・・・・	P 12
5.	まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・	P 14

1. 目的

家庭ごみ及び事業系ごみの排出状況や、資源化可能物の混入量の把握を行い、今後の廃棄物減量の施策検討の基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査の概要

(1) 家庭ごみ

①調査対象

共同住宅が多い町、公住が多い町、一戸建て住宅と高齢者世帯が多い町、若年世帯が多い町、戸別収集地区を対象に市内5町を選定した。

R6年度の調査対象地区はR5年度と同じとした。

	一戸建て住宅と 高齢者世帯が多い町	公住が多い町	戸別収集地区	共同住宅が多い町	若年世帯が多い町
R5	栄町・寿町	末広町	勇払	拓勇西町	ウトナイ北
R6	栄町・寿町	末広町	勇払	拓勇西町	ウトナイ北

②調査方法（戸別収集は若干異なる）

・燃やせるごみ・燃やせないごみ

分析対象となる町のごみステーションのうち、指定した15ヵ所から指定ごみ袋5ℓ、10ℓ、20ℓ、30ℓ、40ℓと、有害ごみ・おむつ類をそれぞれ平均的な量で合計100kg程度になるように回収する。

・プラスチック・紙類

分析対象となる町のごみステーションのうち、指定した15ヵ所からそれぞれ標準的、平均的なごみ袋を2袋ずつ回収する。

・資源物（缶・びん・ペットボトル・紙パック）

1ヶ所のステーションに出ているごみの袋を全て回収する。

③分析項目

- (1)厨芥類（調理くず、食品ロス） (2)布類 (3)木類 (4)ゴム・皮革類 (5)紙おむつ (6)紙類 (7)感染ごみ
(8)スチール缶 (9)アルミ缶 (10)ペットボトル (11)びん類 (12)プラスチック類 (13)有害ごみ
(14)その他不燃物

(2) 事業系ごみ

①調査対象

沼ノ端クリーンセンターへ搬入された事業系ごみを対象とする。

②調査方法

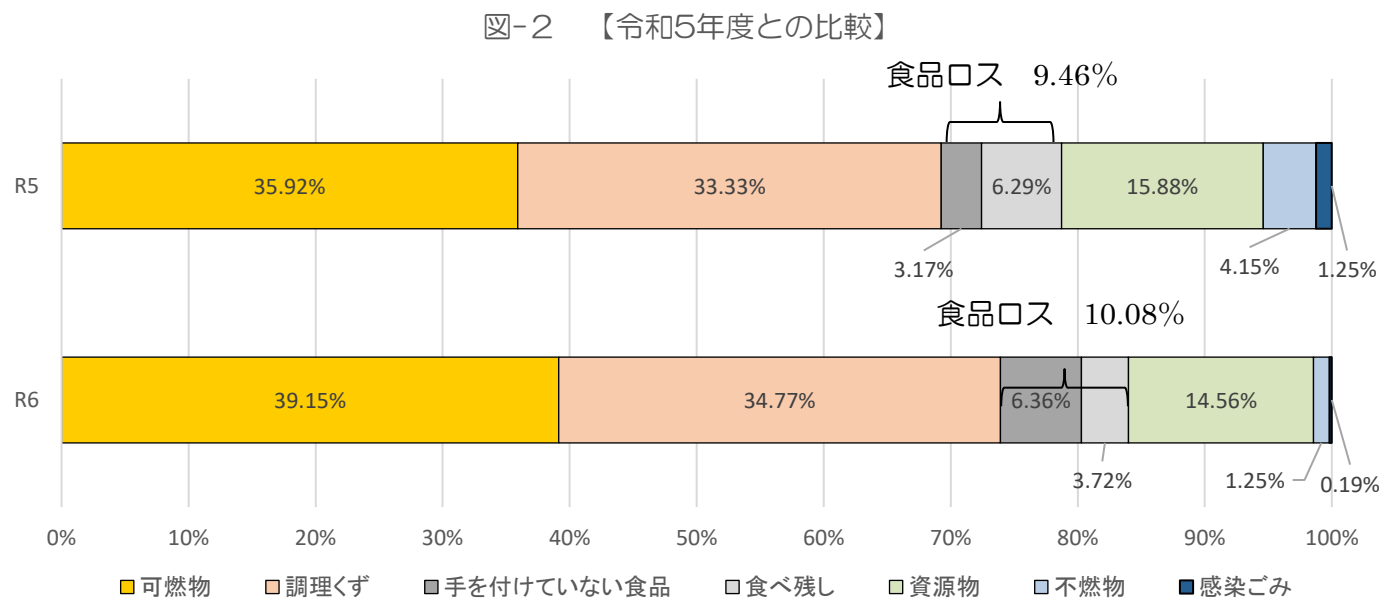
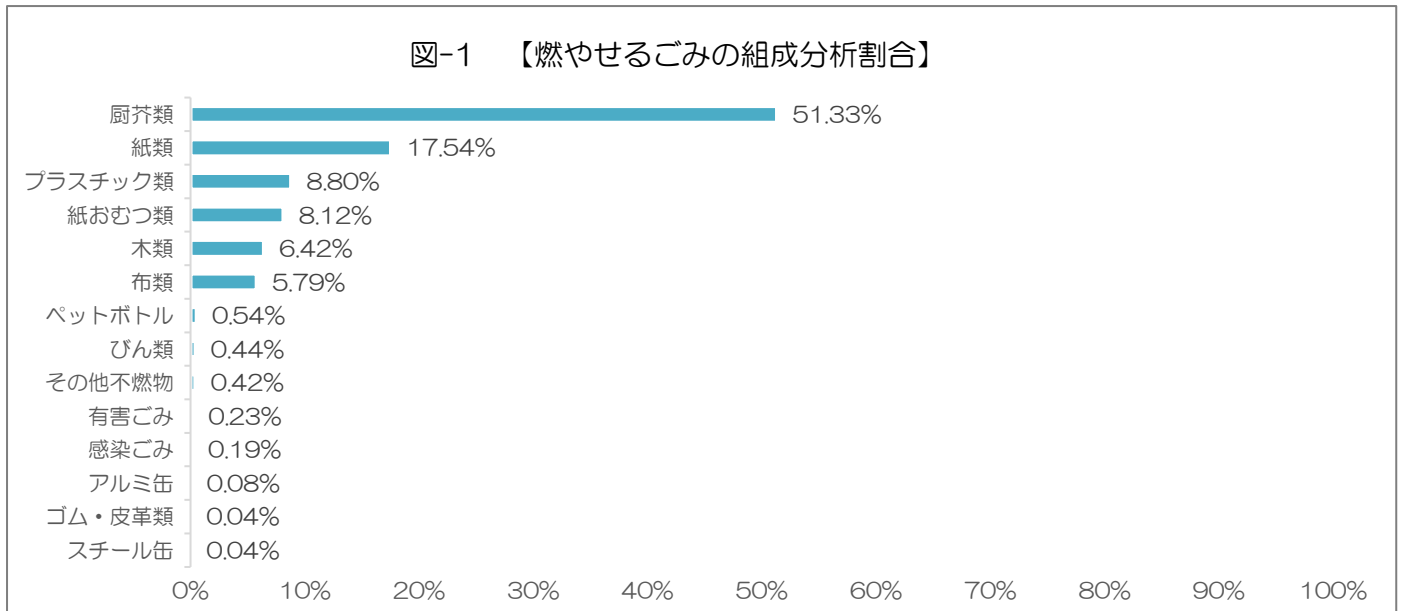
事業系ごみの搬入ピット内に堆積している廃棄物を攪拌し、100kg程度を分析用試料とする。

③分析項目

- (1)厨芥類（調理くず、食品ロス） (2)紙類 (3)布類 (4)木類 (5)ゴム・皮革類 (6)アルミ缶 (7)スチール缶
(8)びん類(9)ペットボトル (10)プラスチック類（個人消費のもの） (11)産業廃棄物

3. 家庭ごみの分析結果

(1) 燃やせるごみ



燃やせるごみの分析結果は、厨芥類の割合が最も高く、次いで紙類、プラスチック類という結果となった。

令和5年度との比較では、**感染ごみの割合が 1.25%から 0.19%に減少し、不燃物の割合も 4.15%から 1.25%に減少**となった。

割合が増加したものとしては、**調理くずの割合が 33.33%から 34.77%と増加した**。また、**厨芥類の食品ロスの割合が 9.46%から 10.08%と2年連続増加した**。食べ残しは減少傾向に向かっているが、手をつけていない食品が増加し主に惣菜品や食パンなど日持ちがしないものが多くなっていた。

図-3 【可燃物の内訳】

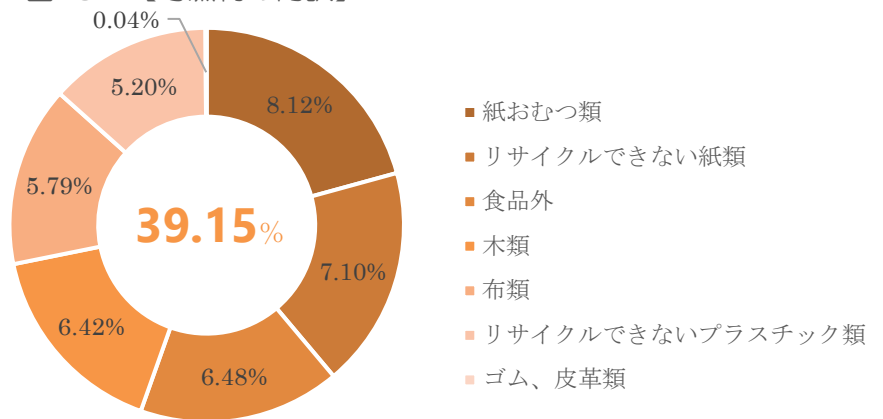


図-4 【資源物の内訳】

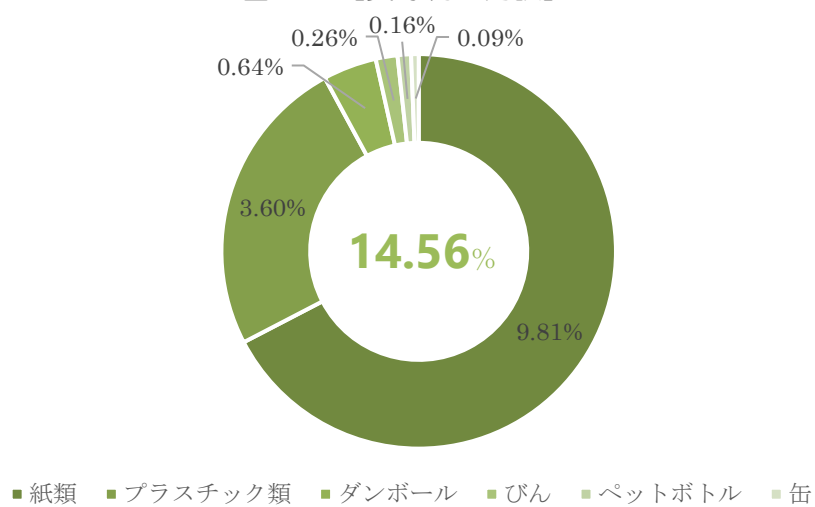
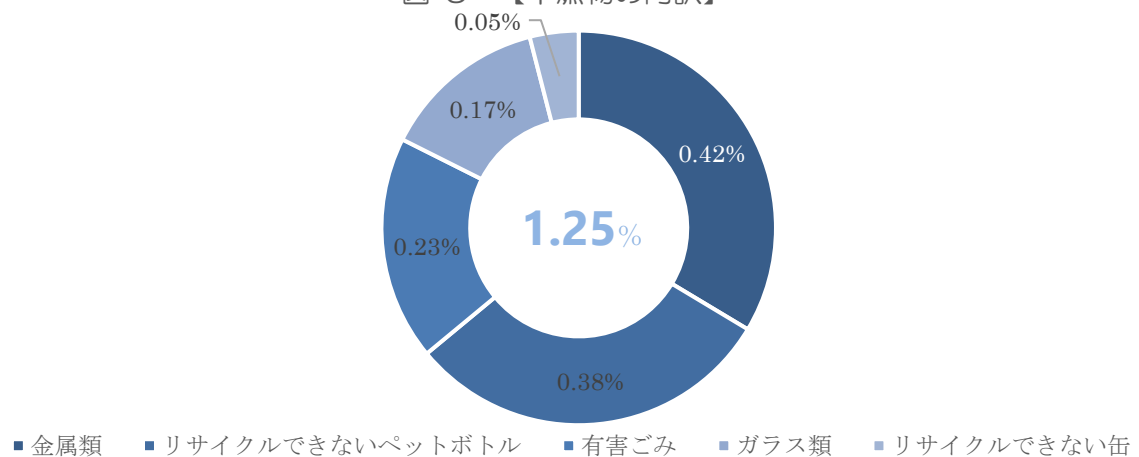


図-5 【不燃物の内訳】



(2) 燃やせないごみ

図-6 【燃やせないごみの組成分析割合】

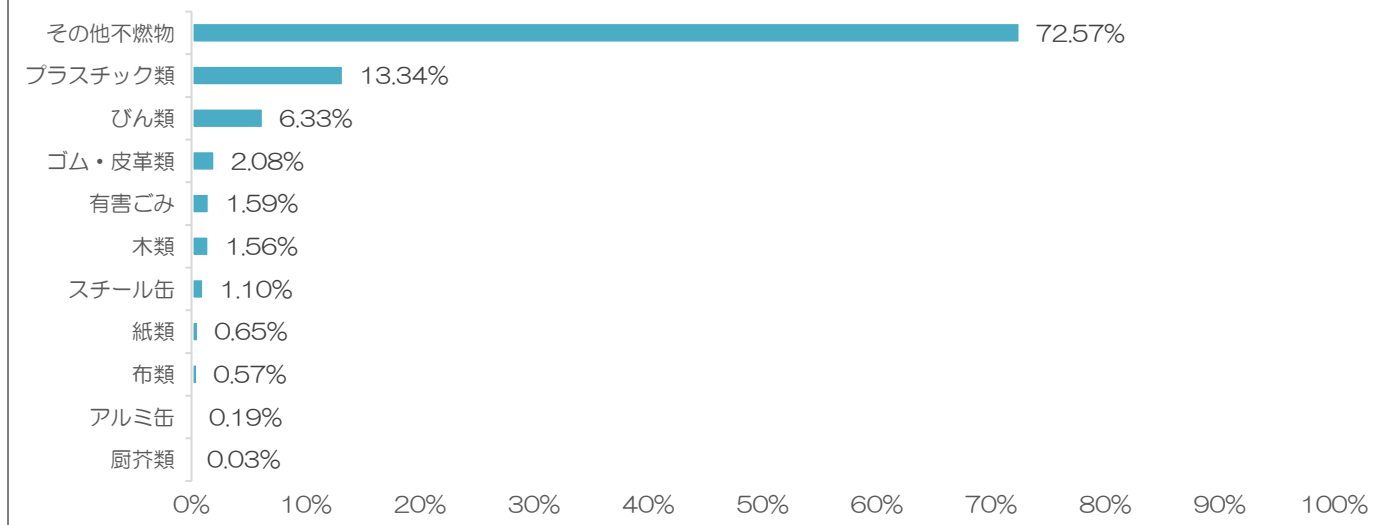
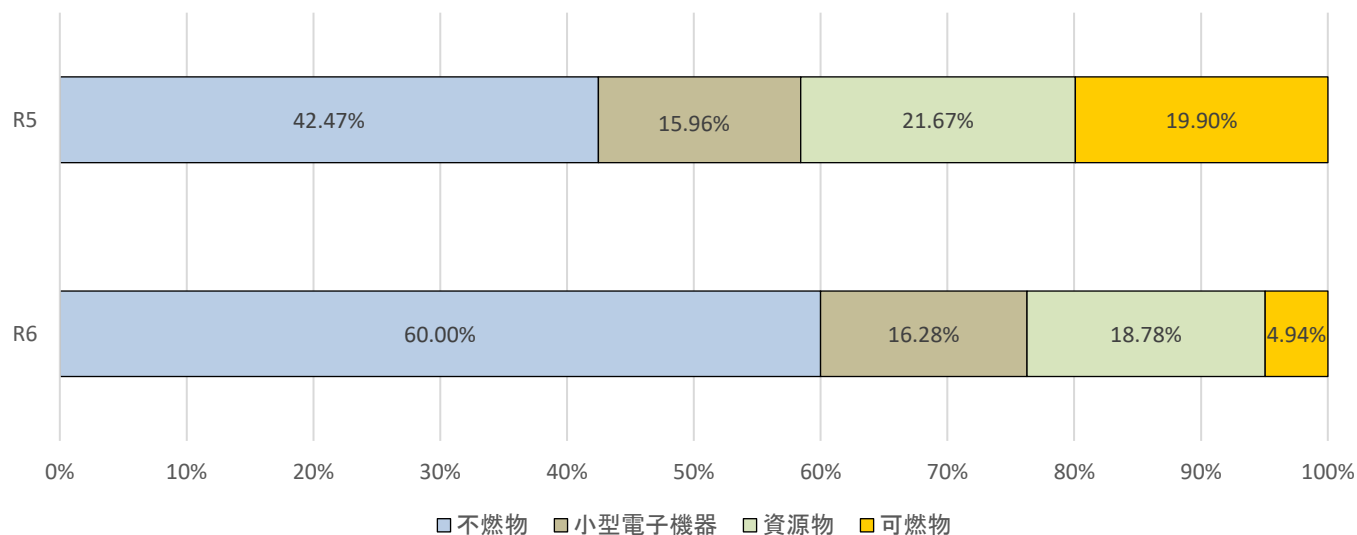


図-7 【令和5年度との比較】



燃やせないごみの組成分析結果は、その他の不燃物が 72.57%、次いでプラスチック類が 13.34%となった。

令和5年度との比較では、可燃物については 19.90%から 4.94%と大幅に減少し、資源物の割合も 21.67%から 18.78%に減少した。

割合が増加したものとしては、不燃物の割合が 42.47%から 60%に増加した。また、小型電子機器の割合が 15.96%から 16.28%に増加した。

図-8 【不燃物の内訳】

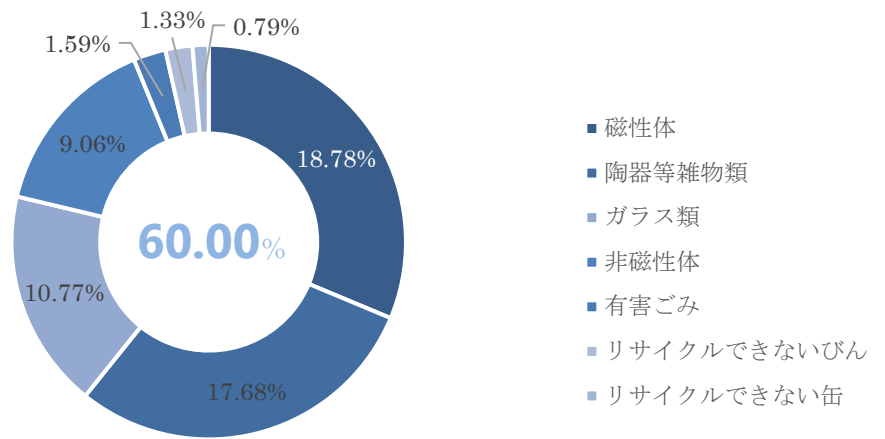


図-9 【資源物の内訳】

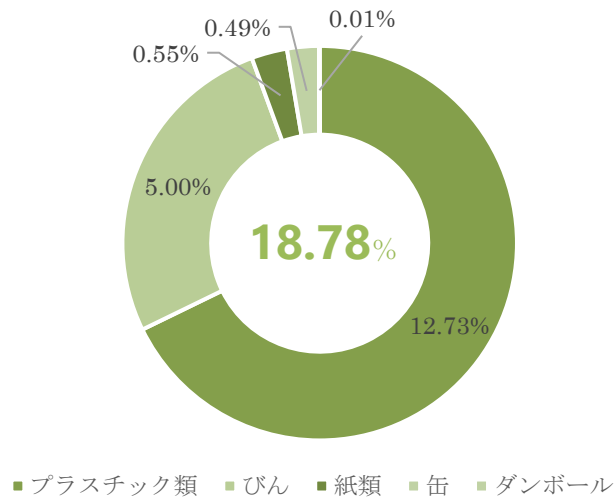
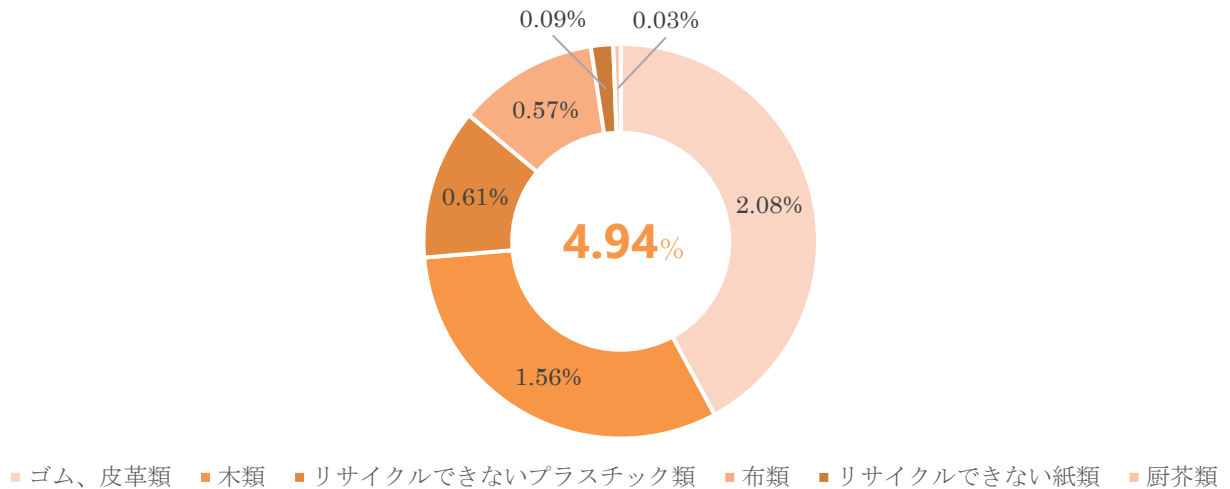


図-10 【可燃物の内訳】



(3) プラスチック類

図-1 1 【プラスチック類の組成分析割合】

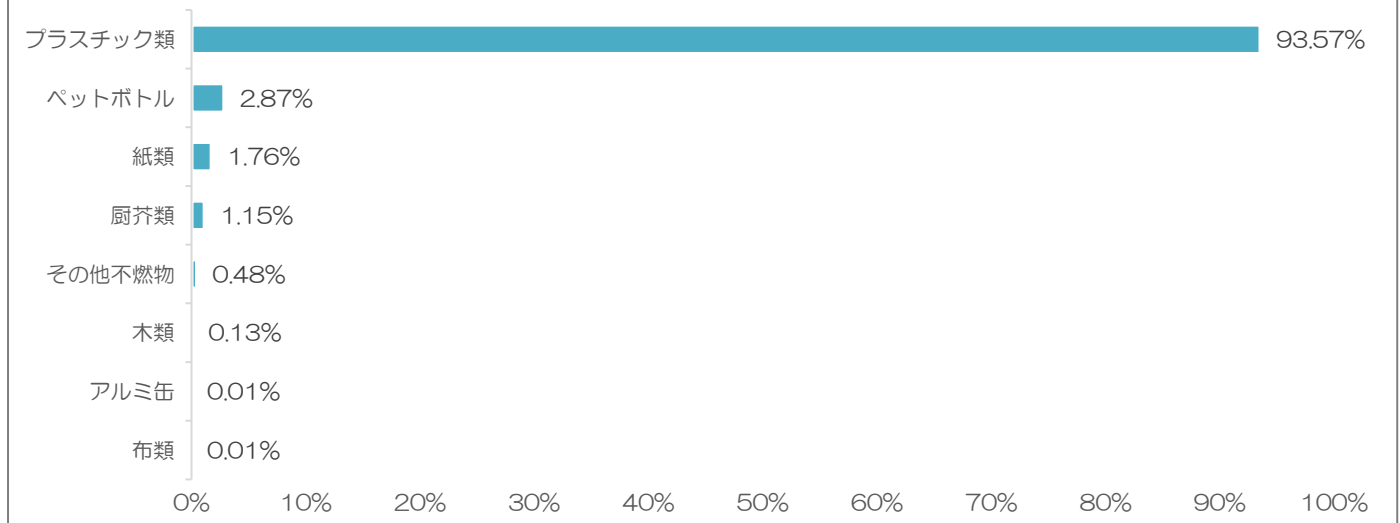
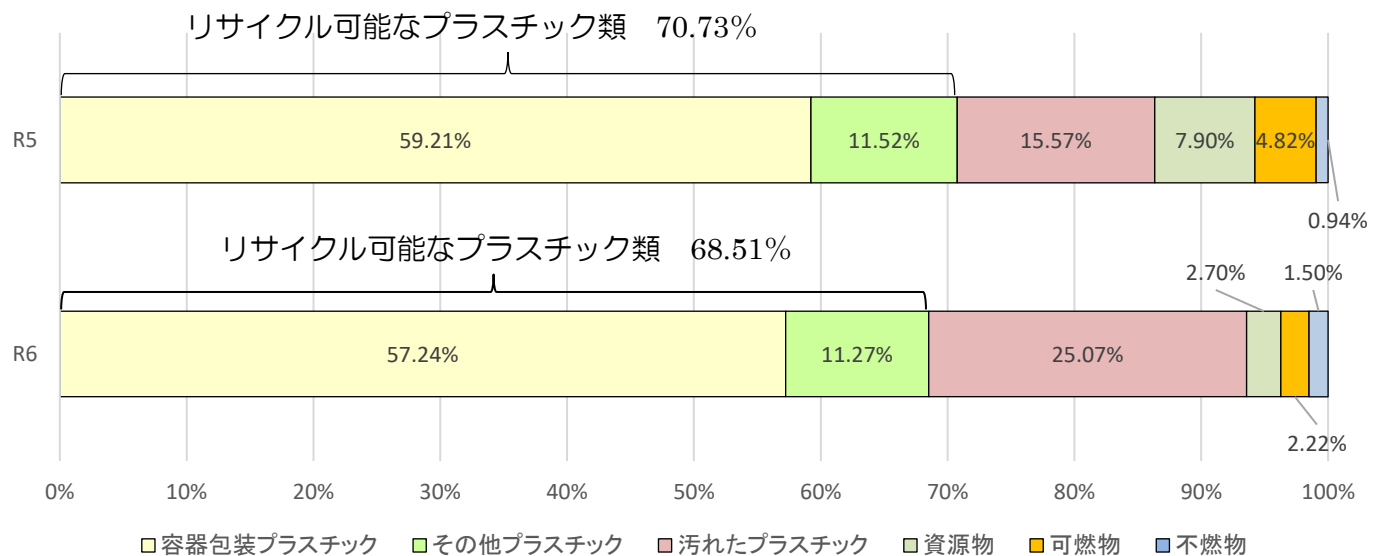


図-1 2 【令和5年度との比較】



プラスチック類の組成分析結果は、プラスチック類が93.57%、次いでペットボトルが2.87%となった。

令和5年度と比較すると、資源物の割合も7.90%から2.71%に減少し、可燃物の割合も4.82%から2.22%に減少した。しかし、リサイクル可能なプラスチックの割合が70.73%から68.51%と減少し、汚れたプラスチックは15.57%から25.07%に増加した。

図-13 【資源物の内訳】

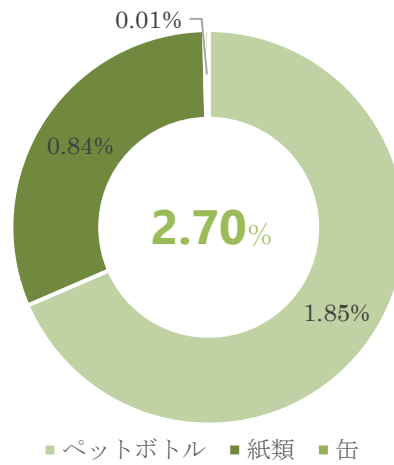


図-14 【可燃物の内訳】

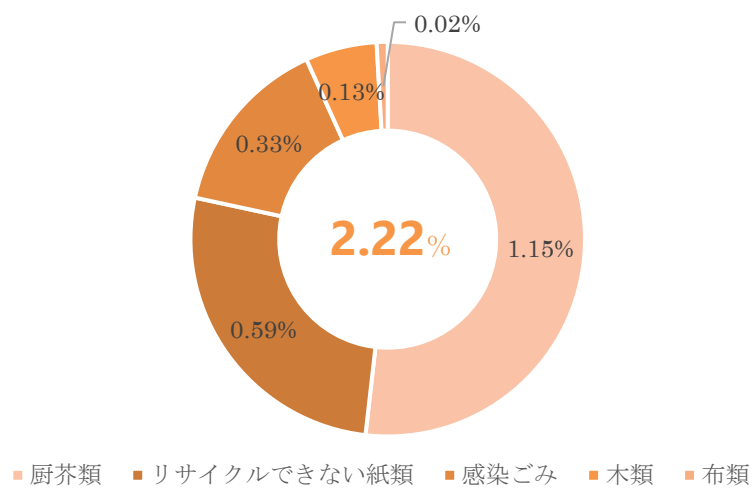
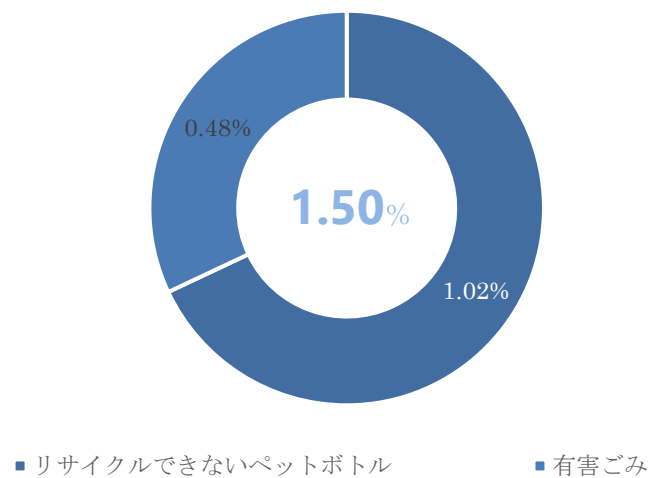


図-15 【不燃物の内訳】



(4) 紙類

図-16 【紙類の組成分析割合】

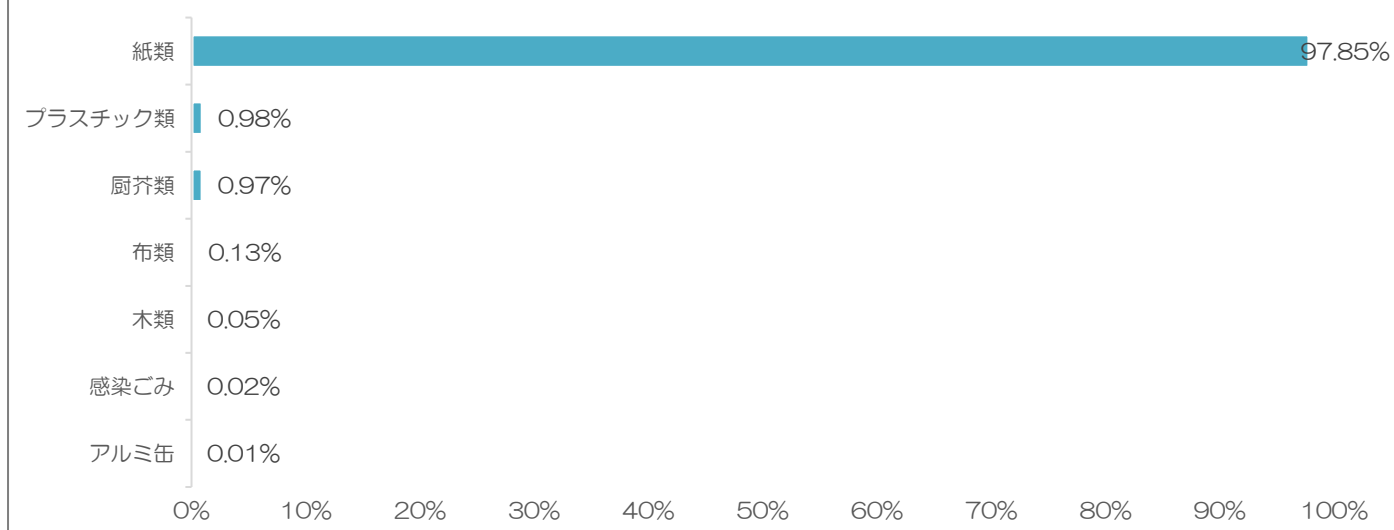
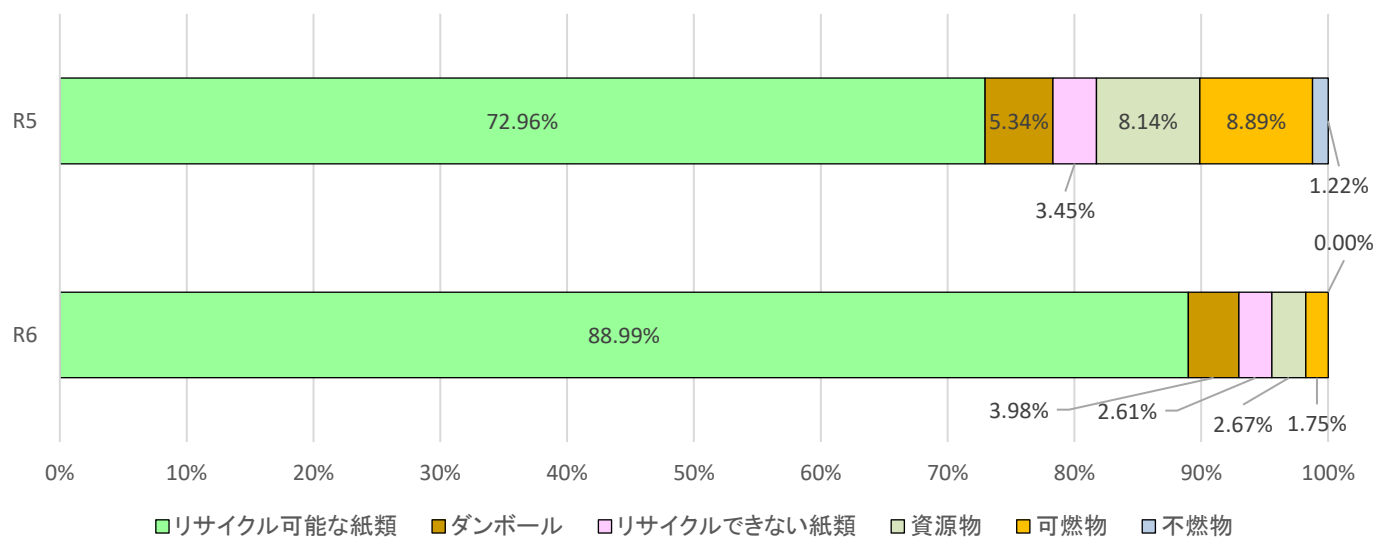


図-17 【令和5年度との比較】



紙類の組成分析結果は、紙類が 97.85%、次いでプラスチック類が 0.98%となった。

令和5年度と比較すると、リサイクル可能な紙類の割合が 72.96%から 88.99%と大幅に増加した。また、リサイクル可能な紙類を除いた全ての項目で割合が減少し、不燃物に関しては 0%という結果になった。

図-18 【リサイクル可能な紙類の内訳】

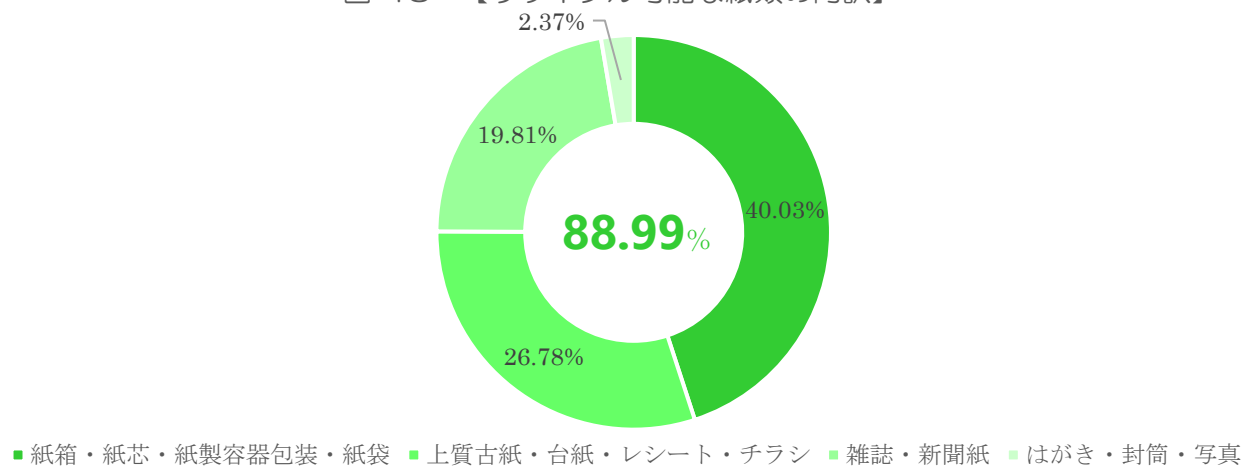


図-19 【資源物の内訳】

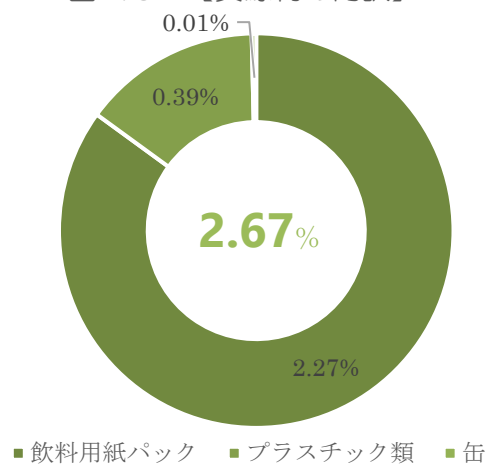
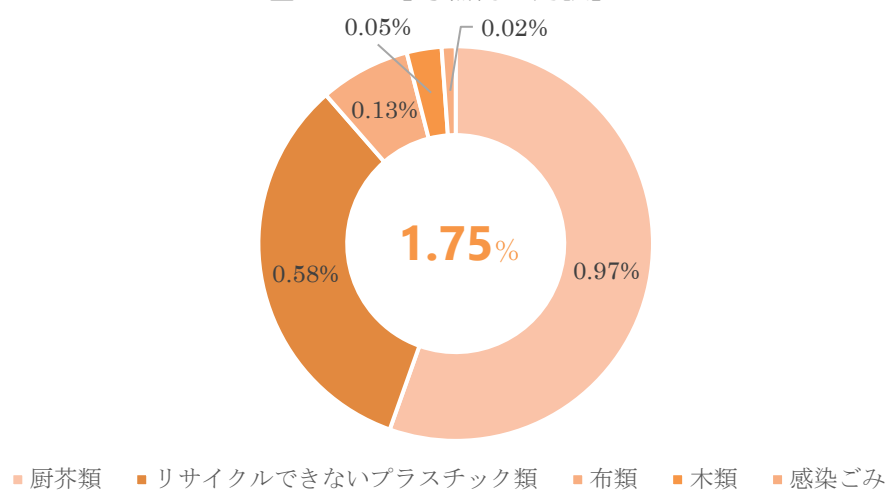


図-20 【可燃物の内訳】



(5) 資源物（缶・びん・ペットボトル・紙パック）

図-21 【資源物の組成分析割合】

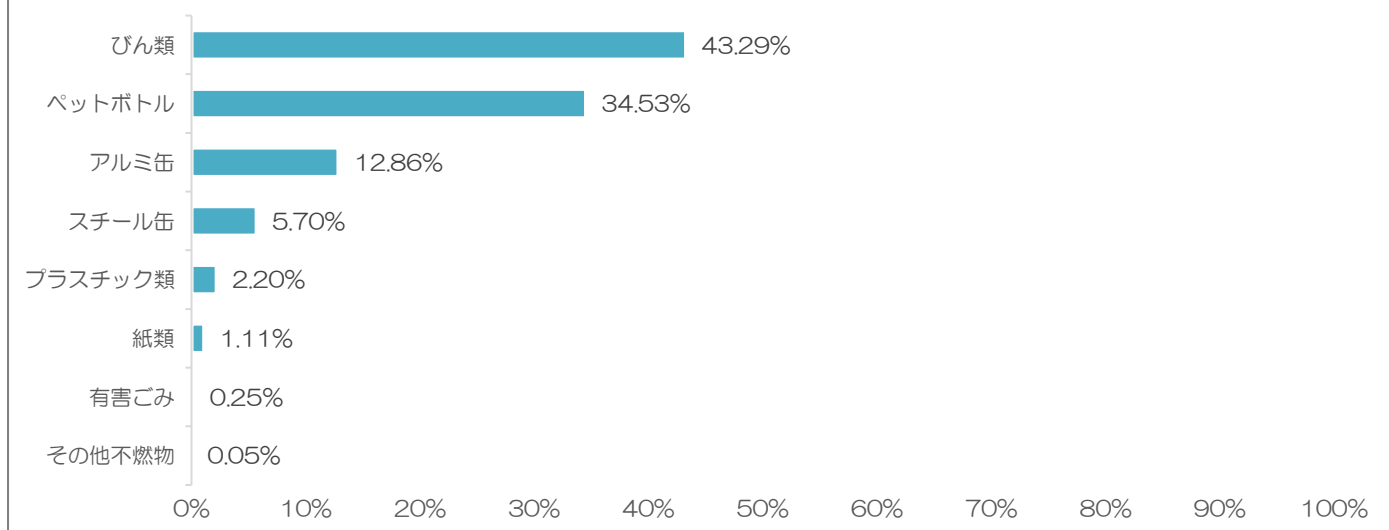
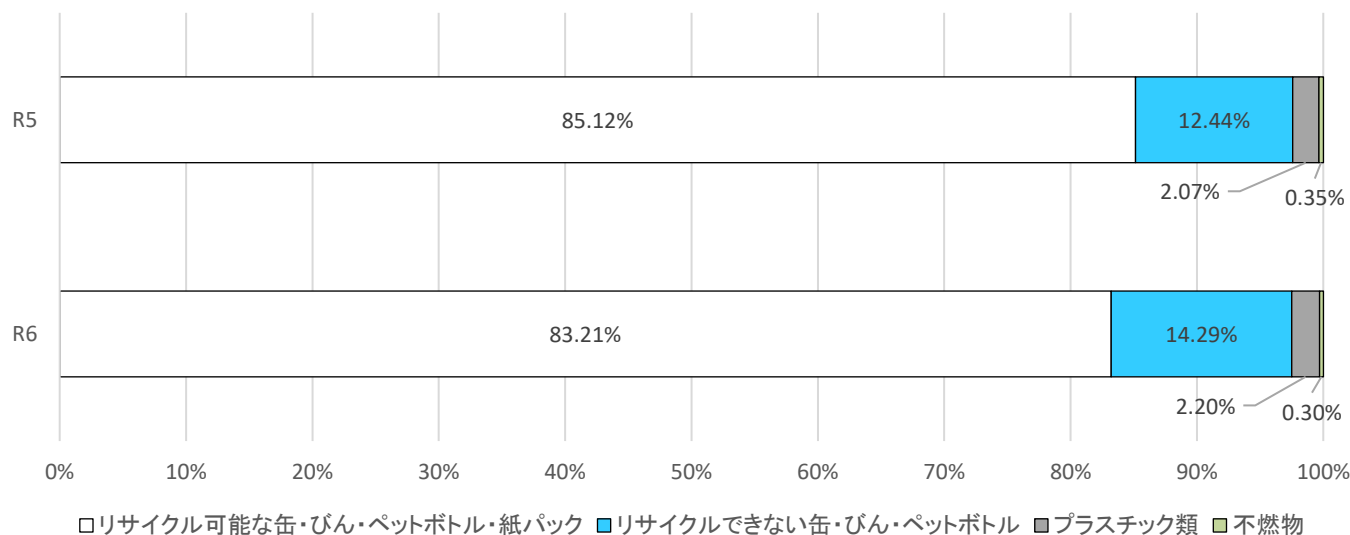


図-22 【令和5年度との比較】



資源物の分析結果は、びん類が43.29%、次いでペットボトルが34.53%となった。

令和5年度と比較すると、リサイクル可能な缶・びん・ペットボトル・紙パックの割合が85.12%から83.21%に減少した。また、リサイクルできない缶・びん・ペットボトル・紙パックが12.44%から14.29%に増加した。

図-23 【リサイクル可能な缶・びん・ペットボトル・紙パックの内訳】

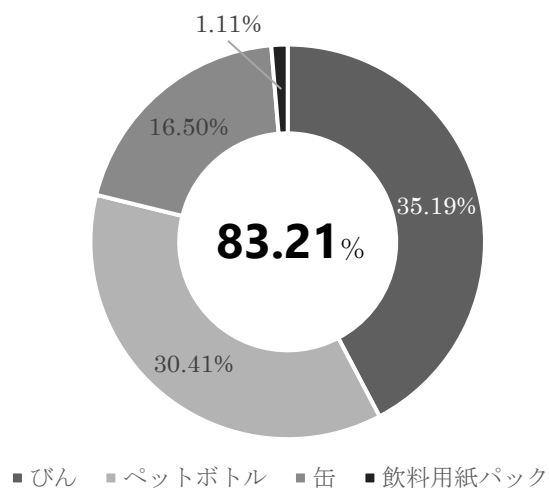


図-24 【リサイクルできない缶・びん・ペットボトルの内訳】

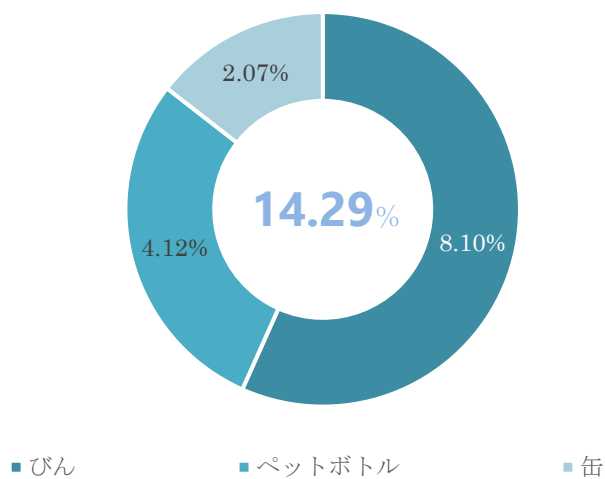
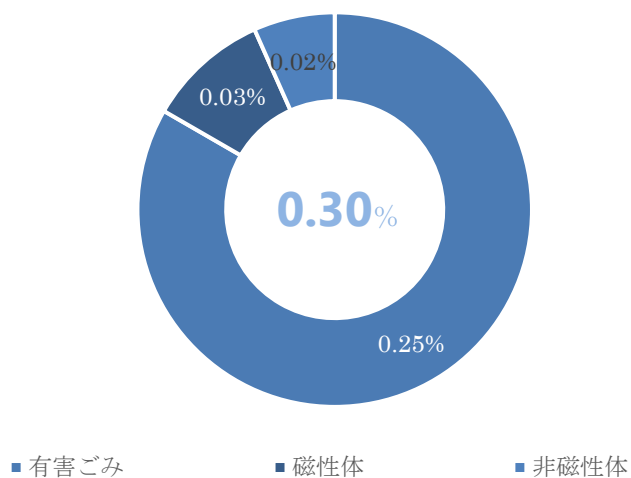
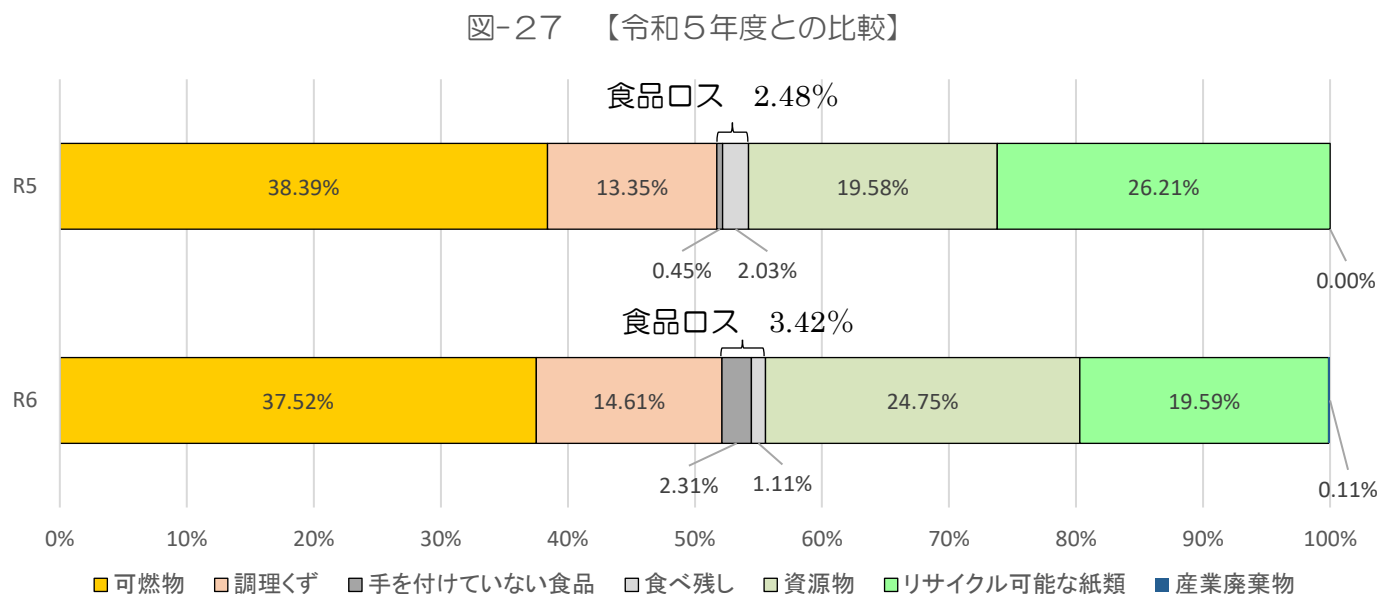
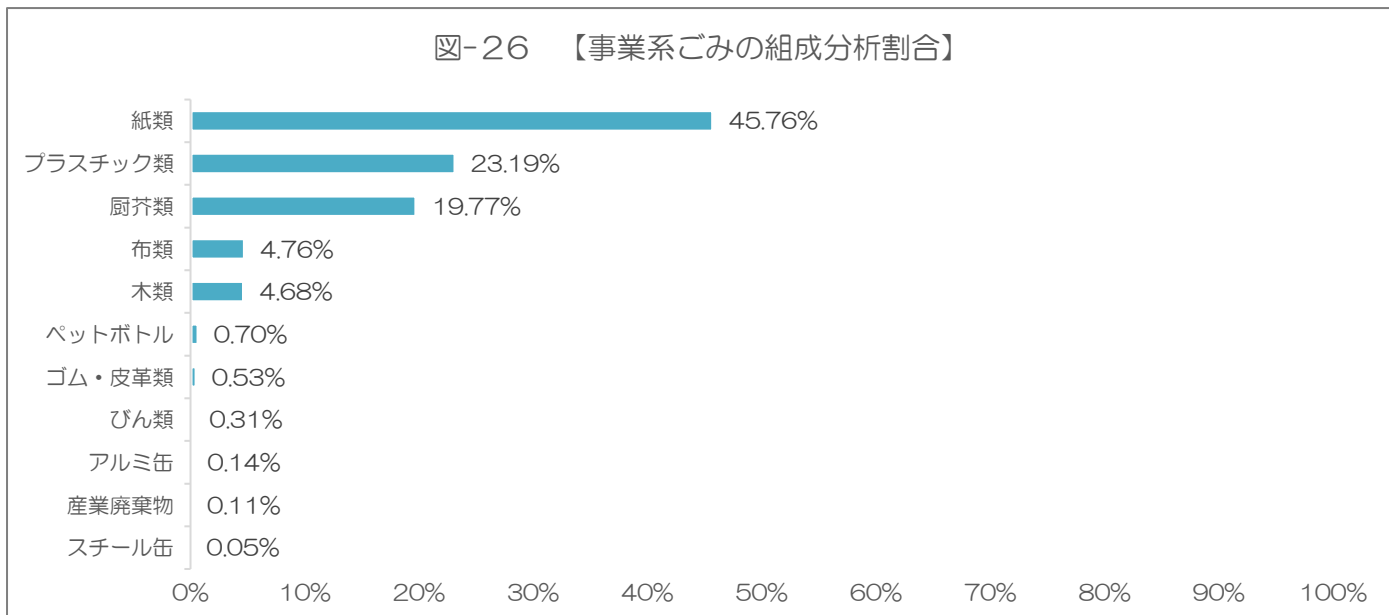


図-25 【不燃物の内訳】



4. 事業系ごみの分析結果



事業系ごみの組成分析結果は、紙類が45.76%、次いでプラスチック類が23.19%となった。

令和5年度と比較すると、食べ残しが2.03%から1.11%に減少し、リサイクル可能な紙類が26.21%から19.59%に減少した。

改善点としては、調理くずが13.35%から14.61%に増加し、手をつけていない食品が0.45%から2.31%に増加した。また、産業廃棄物が0.11%となった。

図-28 【可燃物の内訳】

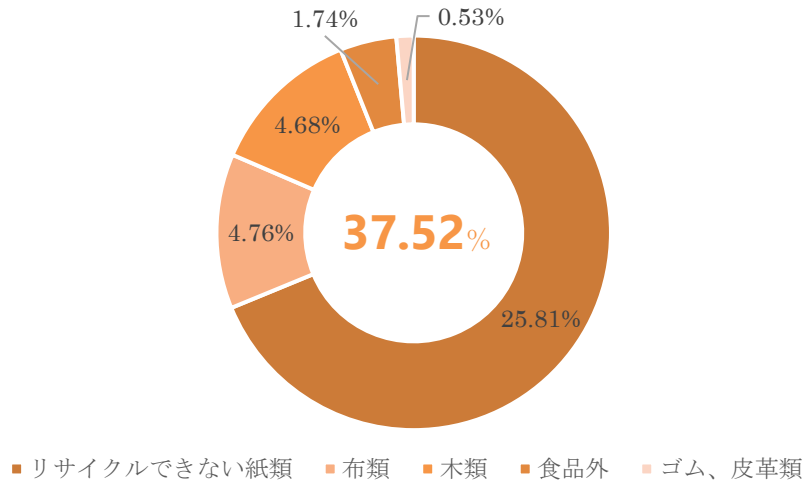


図-29 【資源物の内訳】

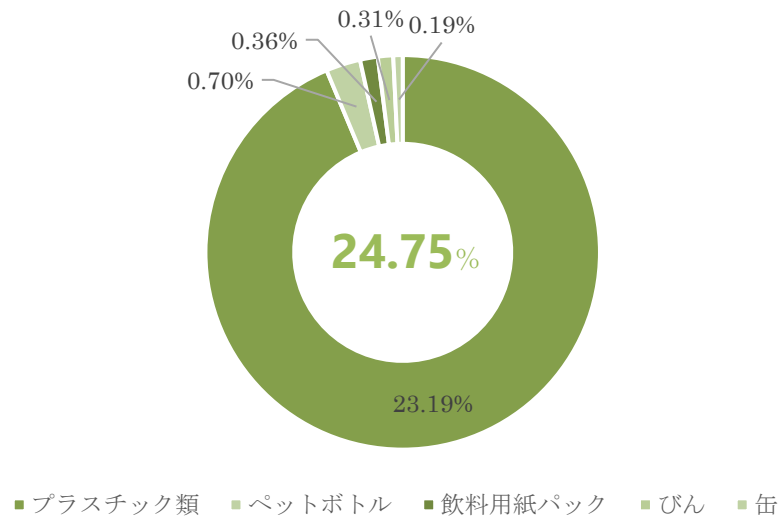
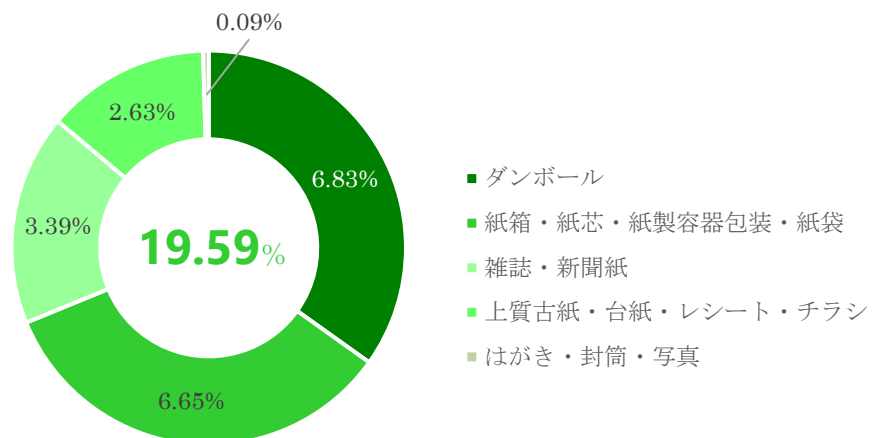


図-30 【リサイクル可能な紙類の内訳】



5. まとめ

【家庭系ごみについて】

●今年度の内訳

- ・燃やせるごみの感染ごみの割合が 1.25%から 0.19%に減少した。
- ・燃やせないごみの可燃物の割合が 19.90%から 4.94%に減少した。
- ・プラスチック類の資源物の割合が 7.90%から 2.71%に減少した。
- ・紙類のリサイクル可能な紙類の割合が 72.96%から 88.99%に増加した。
- ・紙類のリサイクル可能な紙類以外の項目が前年より減少した。
- ・全体を通じて前年度より項目以外の排出物が減少し、排出状況が改善された。

●今年度の課題点

- ・夏季の分析で手をつけていない食品の割合が増加していたため、燃やせるごみの調理くず・食品ロスが増加した。
- ・プラスチック類の汚れたプラスチックが 15.57%から 25.07%に増加した。
- ・資源物のリサイクルできない缶・びん・ペットボトル・紙パックの割合が 12.44%から 14.29%に増加した。

【事業系ごみについて】

●今年度の内訳

- ・食べ残しの割合が 2.03%から 1.11%に減少した。
- ・リサイクル可能な紙類の割合が 26.21%から 19.59%に減少した。

●今年度の課題点

- ・食品ロスの割合が 2.48%から 3.42%と増加した。
- ・調理くずの割合が 13.35%から 14.61%に増加した。
- ・産業廃棄物があり、使い捨てライターが多くみられた。

【今後の改善策】

- ・食品ロスの割合が増加しており、削減への対策を講じるため、燃やせるごみの回数を増やすか検討する。
- ・今年度は夏季に集中して分析を行ってしまったため、来年度は季節毎に分析を行えるようにする。
- ・前年度比較だと数値にばらつきが生じる可能性があるため、過去4年平均比較で作成することを検討する。
- ・不適正の割合が多かった地区については、町内会等を通じて指導を行うことを検討する。